

日本学術会議第一部社会学委員会 ジェンダー研究分科会(第24期・第2回)
議事要旨

日時:2018年4月15日 午後3時～5時20分

場所:明治学院大学白金キャンパス 本館9階92会議

出席者(50音順,敬称略):井谷恵子、伊藤公雄、上野千鶴子、遠藤薫、大沢真理、落合恵美子、海妻径子、河野銀子、木本喜美子、窪田幸子、小浜正子、柘植あづみ、天童睦子、中谷文美、本田由紀、宮崎恵子

議題

1) 第1回の議事要旨が承認された。

2) WSSFでのセッション開催について

9月25-28日に福岡で開催されるWSSFで、当分科会企画のセッションを開催する件について報告があった(3月に分科会承認済み)。WSSFのセッションに合わせて分科会及び公開シンポジウムを開催するかどうかを審議した結果、WSSFにあわせた分科会は開催しないこととした。

3) GEAHSS(第1回)において提案されたアンケート「人文社会科学系研究者の男女共同参画実態調査(仮称)」(2018年 実施予定)について

人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会(GEAHSS)が第一部総合ジェンダー分科会と共同で実施する人文社会科学系研究者の男女共同参画実態調査に、当分科会から追加して欲しい質問項目などを検討したいという提案があった。内容的に関連が深い3)、4)の報告を踏まえてから審議することになった。

4) 「学術の再生産があぶない」のシンポジウムで明らかになった課題についての話題提供

当分科会が第23期に実施したシンポジウムの内容を振り返りつつ、提言の提出を意識した論点の整理が提示された。続いて若手研究者の不安定な処遇の課題などが明らかにされた。

5) 「日本におけるジェンダー政策の展開について」話題提供

「ジェンダー平等関連政策」の性格と変遷についての解説のほか、就労しても貧困から抜け出せない日本の状況が国際的に見ても特異であることが示され、さらに科学技術系専門職に女性が増えない原因が2008年の男女共同参画学協会連絡会の調査で出されたが、その検証もGEAHSS調査の探索課題であるとの指摘がなされた。

6)その他

①提言についての議論

提言の作成に必要な説明がなされた。その上で、今期は、研究会を重ねて現状把握に努め、提言を出す準備をするのがよいのではないか、という提案が出された。

とくに3)での報告を踏まえ、パラアカデミアをめぐる問題については、学術の再生産の危機という観点からも、ジェンダーの観点からも重要であるとともに、その当事者が狭い意味での研究者だけでなく、多岐にわたること、さまざまな背景要因が絡み合っていることについて、種々議論した。提言作成には数的エビデンスも欠かせないため、GHEASS 大規模実態調査や他の科研費プロジェクトなどとも連携しつつ、実態把握に努める。

②GEAHSS 調査項目について

これまでの議論の内容を踏まえ、研究者としての処遇、調査対象者の拡大などについて、具体的な提案が出された。今後の追加・修正項目について、具体的な文言を添えて、本調査票の作成にあたっている委員に提案を行うことになった。

③次回の分科会開催について

2018年6月9日(土)10:30~12:00に開催する。

以上